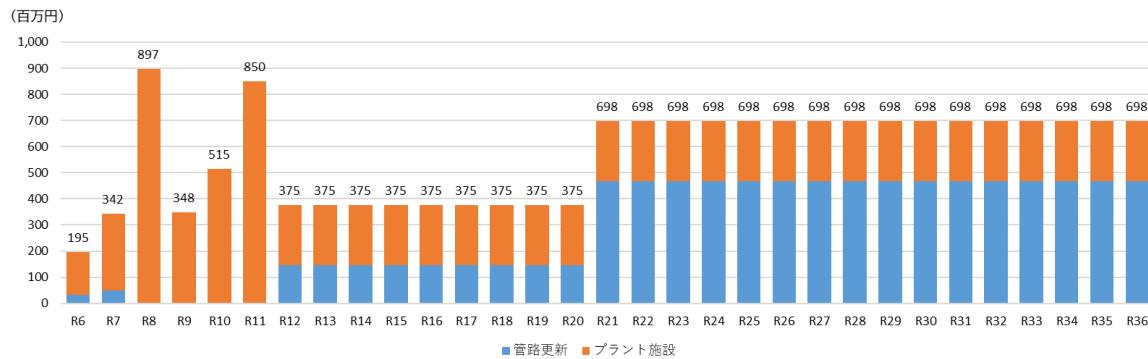


4 投資財政計画

(1) 投資計画

- 令和6(2024)年度から令和11(2029)年度にかけては、銚子市公共下水道ストックマネジメント計画（第2期）に基づき、更新時期を迎える芦崎終末処理場の設備を中心に改築を実施する予定です。
- その後は、平成30(2018)年度に策定したストックマネジメント計画実施方針にて試算した管渠・プラント施設を適切かつ効率的に維持していくための費用について、平準化された予算の範囲内で実施する計画としています。
- 今後、供用開始から50年以上経過し法定耐用年数を迎える管渠が増加することから、ストックマネジメントの考えに基づき、特定の年度に更新投資費用が集中しないよう、平準化を図りながら施設の更新を行っていく必要があります。



(2) 財政計画

- 安定した経営のため、経常収支比率100%以上を維持します。
- 資金残高については、基準外繰入金で不足額を補うことで1億円前後を確保する計画としていますが、1億円を超える場合には、企業債発行額を抑制する計画としています。

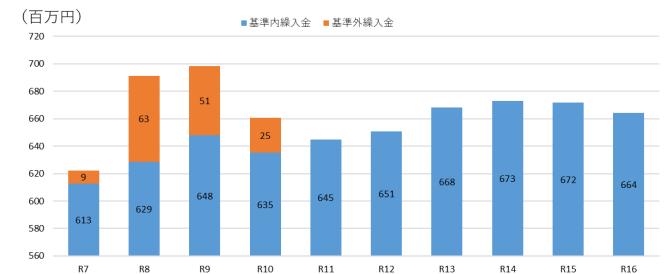
(3) 収支計画

(単位：百万円)

| 年度 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 (中間) | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 (10年目) |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| 収益的収入 | 1,489 | 1,494 | 1,526 | 1,507 | 1,516 | 1,537 | 1,549 | 1,540 | 1,537 | 1,520 |
| 収益的支出 | 1,488 | 1,494 | 1,526 | 1,507 | 1,516 | 1,537 | 1,548 | 1,540 | 1,537 | 1,520 |
| 資本的収入 | 679 | 1,226 | 539 | 642 | 897 | 390 | 369 | 328 | 306 | 279 |
| 資本的支出 | 1,303 | 1,791 | 1,148 | 1,225 | 1,483 | 1,003 | 964 | 932 | 917 | 877 |
| 資金残高 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

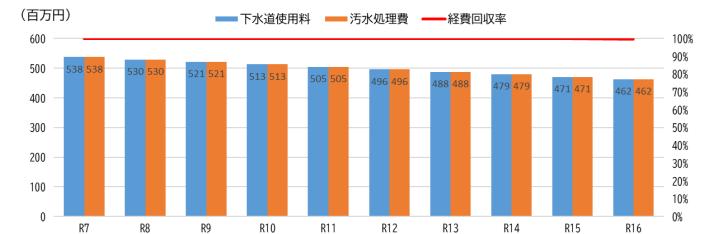
(3) 一般会計繰入金

- 計画期間内の収益的収入と資本的収入を合算した一般会計繰入金を示します。
- 一般会計繰入金には、公費で負担すべき「基準内繰入」と、本来であれば下水道使用料などの自己財源で負担すべき「基準外繰入」があります。
- 元金償還金などの減少に伴い、基準外繰入金は縮減していく見通しです。



(4) 経費回収率

- 使用料収入で回収すべき経費を、どの程度賄えているかを表す指標です。
- 汚水処理費は緩やかに減少しますが、使用料収入も減収の見通しのため、経費回収率はおおむね100%を維持する見通しです。



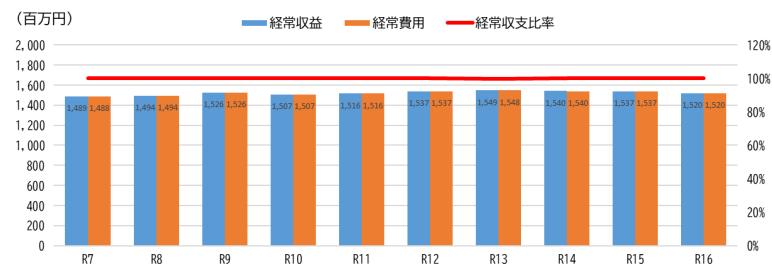
(5) 経営指標などの目標値

| 項目 | 単位 | 望ましい動き | 令和5(2023)年度実績 | 令和11(2029)年度目標 | 令和16(2034)年度目標 | 計算式 | 指標等の意味 |
|--------------|----|--------|---------------|----------------|----------------|--|---|
| 企業債残高 | 億円 | ↓ | 83.21 | 61.15 | 38.43 | - | 建設工事などに要する資金を調達するために借り入れる長期借入債の残高。 |
| 一般会計繰入金 | 億円 | ↓ | 9.07 | 6.45 | 6.64 | - | 一般会計繰入金のうち、総務省の基準により、一般会計で負担すべき経費とされているものです。(例：雨水処理、分流入下水等に要する経費など) |
| 基準外繰入金 | 億円 | ↓ | 3.55 | 0.00 | 0.00 | - | 一般会計繰入金のうち、総務省の基準にない経費です。(主に収支不足補填分) |
| 経常収支比率 | % | ↑ | 102.75 | 100.01 | 100.01 | 経常収益 ÷ 経常費用 × 100 | 使用料収入や一般会計繰入金などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。 |
| 流動比率 | % | ↑ | 43.19 | 52.67 | 62.49 | 流動資産 ÷ 流動負債 × 100 | 短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。 |
| 企業債残高対事業規模比率 | % | ↓ | 1394.87 | 1143.01 | 790.74 | $\frac{\text{企業債現在高} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$ | 使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。 |
| 経費回収率 | % | ↑ | 99.74 | 100.00 | 100.00 | 下水道使用料 ÷ 汚水処理費 (公費負担分を除く) × 100 | 使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを表す指標です。 |
| 汚水処理原価 | 円 | ↓ | 170.07 | 169.68 | 169.72 | 汚水処理費 (公費負担分を除く) ÷ 有収水量 (m) | 有収水量1mあたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。 |
| 水洗化率 | % | ↑ | 83.12 | 85.49 | 87.61 | 水洗化人口 (人) ÷ 処理区域内人口 (人) × 100 | 現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表す指標です。 |

5 経営指標の見通し

(1) 経常収支比率

- 使用料収入や一般会計繰入金などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。
- 計画期間内は100%以上を維持する見通しとなります。ただし、収益の不足分は一般会計繰入金で賄っていることに留意が必要です。



(2) 企業債残高対事業規模比率

- 使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。
- 営業収益は減少する見通しですが、それ以上に企業債残高は減少するため、企業債残高対事業規模比率は減少する見通しです。



6 経営戦略の事後検証、改定などに関する事項

本経営戦略については、PDCAサイクルに基づき、計画の策定 (Plan) ・事業の実行 (Do) ・達成度の評価 (Check) ・改善 (Action) を行い、フォローアップしていきます。このうち達成度の評価及び改善については、モニタリング及びローリングにより実施します。

(1) モニタリング

- 投資計画の進捗確認と財政状況 (損益、資金残高、企業債残高) の確認を毎年度実施します。
- モニタリングにおいて計画との大きな乖離が認められた場合には、次に示す計画見直し (ローリング) を待たずに、計画の全体的な見直しや再検討を実施します。

(2) ローリング

- 計画期間の内のおおむね5年ごとに本経営戦略の見直し (ローリング) を行うものとします。
- 見直しにあたっては、モニタリングを踏まえて、収支計画の計画値と実績の乖離状況について検証のうえ、投資計画をはじめ各支出項目を全体的に見直し、その財源確保策など、必要な改善策を検討します。

